

# 薬連ハイライム

## 日本薬剤師連盟組織内統一候補に 本田あきこ氏が内定

平成29年2月15日、日本薬剤師会会議室において、第5回総務会が開催された。

挨拶に立った山本会長は、ハーボニー偽薬問題に触れ、医薬分業の根幹に係わる問題であり、本会とともに再発防止に向けてしっかり対応していきたい。また、昨年9月の「平成28年度臨時評議員会」の了承を得て、統一候補者の選定作業を行ったので、本日はその点についてご議論を頂きたい。年末には同時改定を控え皆様のご協力が不可欠であると述べた。

藤井基之参議院議員は、他の医療職では2人以上の参議院議員がいるが、薬剤師は1人である。組織決定されれば協力を惜しまないと挨拶した。

山本会長は議案説明の冒頭において、候補者の選考過程について解説した。委員の選出は会長に一任され、選考委員会における議論と経過を把握し、責任を負う立場にある会長と幹事長が入った。監事に入ってもらったのは、会計だけではなく業務監査もお願いしていることから根本・大森両監事を選任した。全国藤井もとゆき薬剤師後援会には、日本病院薬剤師連盟と日本女性薬剤師連盟が入っており、薬剤師の候補者という観点から、木平会長と近藤会長に依頼した。また、男女のバランスを考

慮し、日本病院薬剤師連盟から1名の女性薬剤師を推薦して頂き、以上7名から成る選考委員会とした。この中に薬剤師議員は入っていない。自分たちの責任で候補者を選ぶこととし、経過報告はしてきた。選考委員会では、忌憚のない意見を求めるため介添人等の同席を断り、内容は外に出さないこととした。また、透明性・公平性を確保するために、被推薦者及び当該ブロック役員の方々には、選考委員会委員等への接触を控えて頂くよう文書で依頼したと述べ、十分な議論を求めた。

岩本幹事長から、選考委員会は2月2日に被推薦者から提出された申請書・誓約書・履歴書・論文等の書類審査、7日に面接審査、14日最終審査の3回開催したと説明され、本田顕子（ほんだ あきこ）氏（熊本県：45歳）が最適任とする選考委員会の意見具申書が報告された。その後、議論を経て、全会一致で組織内統一候補者を内定し、3月22日の評議員会に諮られることとなった。

それ以外の評議員会の議案等についても承認され、閉会となった。



## も・と・ゆ・き・便・り

### 医療情報データの活用

自由民主党総務副会長  
参議院議員・薬剤師  
藤井 もとゆき

第193回通常国会は2月27日の衆議院予算委員会並びに衆議院本会議にて、自民・公明の与党等の賛成多数で可決し、審議の舞台は参議院に移りました。

さて、新聞や雑誌で「ビッグデータ」という用語を頻繁に見かけようになっていますが、すでに商業、マーケティングなど様々な分野で施策や戦略立案に活用されてきています。医療分野においても、電子レセプト情報と特定健診等情報データベース（NDB）について、2011年から行政機関や研究者等に対してデータの提供が行われています。NDBには医療保険のレセプトデータのかなりの部分が集められるとともに、年間2千万件を超える特定健診等のデータが含まれており、利用者の目的に応じて様々な用途に活用できるよう単純な集計表として、昨年10月に第1回の公表が行われたところであります。

また、医薬品の安全対策をより効果的に行うため、医療機関や製薬企業等からの副作用の自発報告に加え、全国10の拠点医療機関から1千万人規模の医療

情報を収集し、データベースを整備する事業が2011年度から進められています。このデータベースを活用して、薬剤疫学的手法により医薬品の副作用情報等を定量的に解析することにより、他剤との副作用発現頻度の比較や安全対策措置後の効果検証等が可能となり、医薬品の迅速・的確な安全対策の実施につながるものと期待されています。

更に政府は、医療分野の研究開発を促進するため、個人の権利保護等に配慮しつつ、複数の医療機関から治療や検査などの医療情報を収集し、安全に管理・匿名化を行い、円滑に提供する仕組みを整備する「医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報に関する法律案」を国会に提出しました。こうしたデータを適切に利活用することにより、医療の質や効率性の向上、新薬や医療機器の研究開発の進展、医療情報を用いた健康管理や診療支援などの新技術・新産業の創出といった効果をもたらすものと思います。

藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会（下記アドレス）までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@mfuji.jp